茨城県結城市

柳 下 B 遺 跡

―― 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ――

２０２３

結 城 市 教 育 委 員 会

東 べ 化 工 株 式 会 社

関東文化財振興会株式会社

茨城県結城市

柳下（やなぎした）B（びー）遺跡（いせき）

―― 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ――

2023

結城市教育委員会
東べ化工株式会社
関東文化財振興会株式会社

例　言

1　本書は、東べ化工株式会社（代表取締役　佐渡谷将勝）による宅地造成工事に伴う、結城市結城字柳下12171番1に所在する柳下B遺跡（県遺跡番号08207029）の発掘調査報告書である。

2　本調査は、結城市教育委員会による確認調査に基づいて、事業予定地の内50㎡を対象とした。

3　発掘調査及び整理作業は、東べ化工株式会社から委託を受けた関東文化財振興会株式会社が実施した。

4　調査期間は　令和4年12月3日から同年12月23日までである。

5　調査にあたり、事業者　東べ化工株式会社、結城市教育委員会、関東文化財振興会株式会社の三者で協定書を交わした。

6　調査組織は、以下のとおりである。

調査指導・結城市教育委員会

教　育　長　　黒田光弘

生涯学習課長　斉藤伸明　（～R5.3.31）

〃　　山本賢司（たかし）　（R5.4.1～）

主　　事　　齊藤達也　（～R5.3.31）

主　　幹　　齊藤達也　（R5.4.1～）

調査主体者　関東文化財振興会株式会社

代表取締役　　宮田和男

調査担当者　　平石尚和

7　本報告書の編集は、結城市教育委員会生涯学習課の下、平石尚和が担当し、川井正一（関東文化財振興会株式会社）の協力を得て行った。執筆は、第1章第1節調査に至る経緯を齊藤達也、その他を平石尚和が行った。

8　報告書作成にあたり、下記の諸氏、諸機関からご教授・ご援助を賜った。ここに記して感謝の意を表す次第である。

（敬省略・順不同）

茨城県教育庁総務企画部文化課　結城市教育委員会　茨城県埋蔵文化財センター

東べ化工株式会社　一建設株式会社　カワヒロ産業　古川測量　鶴見貞雄

9　発掘調査、整理・報告書作成の参加者は以下のとおりである。

遠藤香織　　大越慶子　　川又恵美子　郡司ゆき子　　鈴木敬三　　染野幸子　　染谷好江

平井百合子　平石寿一　　廣澤多彦　　益子光江　　荒井夕紀　　田口睦子　　西川忠春

10　本調査における出土遺物及び実測図・写真等は、結城市教育委員会が保管している。

凡　例

1　当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に順拠し、X＝＋34,955 m、Y＝＋3,870 mの交点を基準点（A 1）とした。なお、この原点は、世界測地系（測地成果 2011）による基準点である。

調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北を 10m × 10m 調査区を設定した。

調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用いて、北から南へA・B・C・・・、西から東へ1・2・3・・・とし、「A 1グリット」「B 2グリット」のように呼称した。

2　実測図・遺物観察表で使用する記号は、次のとおりである。

SA－柱穴列　SI－竪穴建物跡　SK－土坑　K－攪乱

3　土層と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄著　日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説の中で述べた粒状の規模は、「粒子」は1㎜以下、「ブロック」は1～10㎜ものを表し、含有物の量は、微量（1~2%）、少量（2~5%）、中量（5~10%）、多量（10%以上）で表した。

4　遺構・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。

遺構全体図は 150 分の 1、各遺構の実測図は 60 分の 1 の縮尺で掲載することを基本とした。

遺物は、原則として 3 分の 1 の縮尺で掲載した。

遺構・遺物実測中の表示は、次のとおりである。

焼土・釉　火床面　竈部材・粘土・黒色処理　－－－ 硬化面

須恵器　媒・油煙　● 土器　○ 土製品　□ 石製品　△ 金属製品

5　遺構一覧表・遺物観察表の記載方法は、次のとおりである。

（1）計測値の単位は、m・cm・g である。なお、現存値は（ ）で、推定値は [ ] を付けて示した。

（2）備考の欄は、残存率やその他必要と思われる事項を記した。

6　「主軸」は、竪穴建物跡については、竈を通る軸線とし、他の遺構については長軸（径）を主軸とみなした。「主軸・長軸（径）方位」は、軸線が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した（例 N－10°－E）。

本文目次

例言
凡例
第１章　調査経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1
第２章　位置と環境 …… 3
　第１節　位置と地形 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　調査の成果 …… 7
　第１節　遺跡の概要 …… 7
　第２節　基本層序 …… 7
　第３節　遺構と遺物 …… 8
　１　古墳時代の遺構と遺物 …… 8
　　竪穴建物跡 …… 8
　２　奈良の遺構と遺物 …… 12
　　竪穴建物跡 …… 12
　３　時期不明の遺構と遺跡 …… 23
　　（１）柱穴列 …… 23
　　（２）土　坑 …… 25
第４章　まとめ …… 27
写真図版 ……ＰＬ１～ＰＬ９
抄録

挿図目次

第１図　柳下Ｂ遺跡調査区設定図
第２図　柳下Ｂ遺跡周辺遺跡分布図
第３図　遺跡全体図
第４図　基本層序
第５図　第１号堅穴建物跡実測図（１）
第６図　第１号堅穴建物跡実測図（２）
第７図　第１号堅穴建物跡竈および掘方実測図
第８図　第１号堅穴建物跡出土遺物実測図
第９図　第２号堅穴建物跡実測図
第10図　第２号堅穴建物跡竈実測図
第11図　第２号堅穴建物跡掘方実測図
第12図　第２号堅穴建物跡出土遺物実測図（１）
第13図　第２号堅穴建物跡出土遺物実測図（２）
第14図　第２号堅穴建物跡出土遺物実測図（３）
第15図　第２号堅穴建物跡出土遺物実測図（４）
第16図　第１号柱穴列・出土遺物実測図
第17図　第２号柱穴列実測図
第18図　第３号土坑実測図
第19図　第４号土坑実測図

挿表目次

第１表　柳下Ｂ遺跡周辺遺跡一覧
第２表　第１号堅穴建物跡出土遺物観察表
第３表　第２号堅穴建物跡出土遺物観察表
第４表　第１号柱穴列出土遺物観察表
第５表　時期不明柱穴列一覧
第６表　時期不明土坑一覧

写真目次

ＰＬ１　１．基本層序　２．第１号堅穴建物跡確認状況　３．第１号堅穴建物跡完掘状況　４．第１号堅穴建物跡遺物出土状況　５．第１号堅穴建物跡竈完掘状況　６．第１号堅穴建物跡竈掘方状況　７．第２号堅穴建物跡確認状況　８．第２号堅穴建物跡完掘状況
ＰＬ２　１．第２号堅穴建物跡遺物出土状況　２．第２号堅穴建物跡（鈎帯具）出土状況　３．第２号堅穴建物跡竈完掘状況　４．第２号堅穴建物跡竈右袖遺物出土状況　５．第２号堅穴建物跡竈左袖遺物出土状況　６．第１・２号柱穴列完掘状況　７．遺跡全景（西から）　８．遺跡全景（東から）
ＰＬ３　SI01　NO.1 ～ NO.10
ＰＬ４　SI01　NO.11 ～ NO.17　　SI02　NO.1 ～ NO.3
ＰＬ５　SI02　NO.4 ～ NO.11
ＰＬ６　SI02　NO.12 ～ NO.20
ＰＬ７　SI02　NO.21 ～ NO.26
ＰＬ８　SI02　NO.27 ～ NO.33　NO.35　NO.36
ＰＬ９　SI02　NO.34　NO.37 ～ NO.42　　SA01　NO.1

第１章　調査経過

第１節　調査に至る経緯

令和４年５月２日付で、一建設株式会社（代表取締役　堀口忠美）より、宅地造成工事に伴い文化財保護法第 93 条の届出が結城市教育委員会生涯学習課へ提出された。提出書類及び工事内容について、一建設株式会社と協議をし、確認調査を実施することとした。

確認調査は、令和４年６月 30 日に実施した。調査の方法は、開発区域の掘削が及ぶ範囲に幅１ｍの試掘溝を４本設定し（Ｔ－１～Ｔ－４）、厚さ 20 ～ 30㎝の表土部分を重機で掘り下げた後、遺構の確認を行った。その結果、Ｔ－１から竪穴建物跡１棟、土坑１基、Ｔ－２から楕円形土坑１基、Ｔ－３から小穴１基、Ｔ－４から竪穴建物跡１棟が確認された。

この調査結果をもとに埋蔵文化財の取り扱いについて、一建設株式会社及び代理人である東照商事株式会社と協議を重ねた結果、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の処置を講ずることで合意した。調査区は、遺構が確認された約 50㎡分を対象とすることとなった。

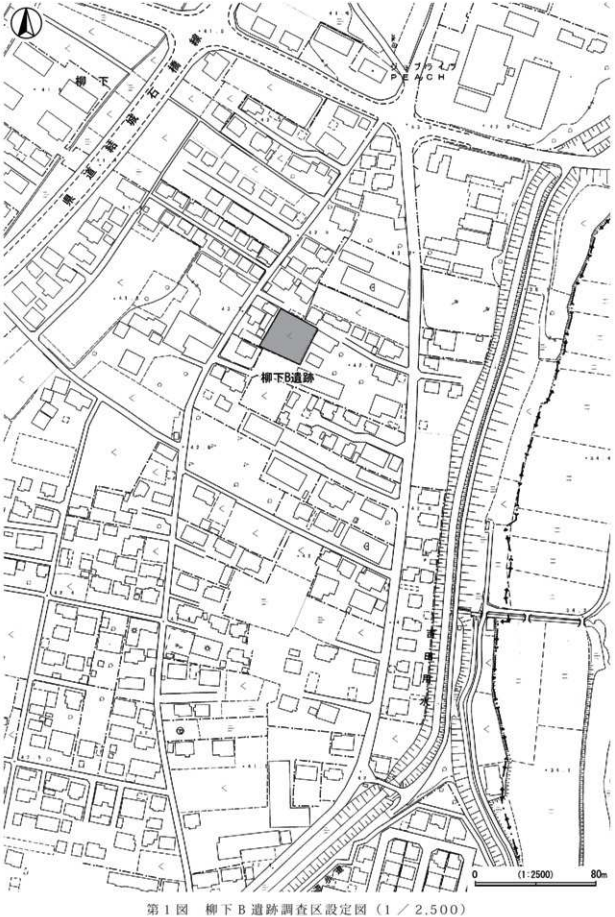
調査は、関東文化財振興会株式会社（代表取締役　宮田和男）が実施することで決定し、令和４年 10 月 17 日付で事業者である東べ化工株式会社（代表取締役　佐渡谷将勝）と「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」を締結した。また、東べ化工株式会社と関東文化財振興会株式会社、結城市教育委員会（教育長　黒田光弘）との間で、「宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を令和４年 10 月 17 日付で交わした。

第２節　調査経過

当遺跡の調査は、令和４年 12 月３日から 12 月 23 日までの約１か月で実施した。以下、調査の経過について、その概要を記述する。

12 月１日、発掘調査のための諸準備を行った。３日、重機による表土除去を行った。遺構確認により竪穴建物跡２棟を確認した。５日から作業員を投入し、竪穴建物跡の掘り込みを進めた。合わせて、方眼杭打ちを行った。16 日、結城市教育委員会が来跡し、遺構と遺物について指導を受けた。出土した遺物は定期的に事務所に届け洗浄注記を進めた。23 日に遺構調査を終了した。

26 日、結城市教育委員会による、調査終了の確認を行った。27 日に結城警察署に発見届を提出した。28 日、重機による埋め戻しと撤収を完了した。



第１図　柳下Ｂ遺跡調査区設定図（１／2,500）

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

柳下Ｂ遺跡は、茨城県結城市大字結城字柳下 12,171 番地の１ほかに所在している。

当遺跡の所在する結城市は茨城県の西部に位置し、北から西にかけては栃木県小山市、東は筑西市、南は八千代町と古河市と接している。結城市は、東側を南下する鬼怒川と利根川の支流である西仁連川の低地帯で挟まれ、下総台地の北西部に位置し、結城市・八千代町などのこの地域は結城台地と総称されている。結城市の中央部を結城台地が南北に延びる地形環境にある。中央部の結城台地には多くの谷津が入り込み、台地を南北に細長く分断している。結城台地の地質は、表土に腐植土の黒色土層があり、その下に褐色の火山灰堆積土の関東ローム層が堆積している。上部ローム層と下部ローム層、その間の鹿沼軽石層からなっている。

第２節　歴史的環境

結城市域には旧石器時代以降の遺跡が多数確認されているが、柳下Ｂ遺跡は結城市の北部に位置し、北から西側は栃木県小山市と接していることから、当遺跡を中心として概ね 5km四方における遺跡の在り方について記していく。

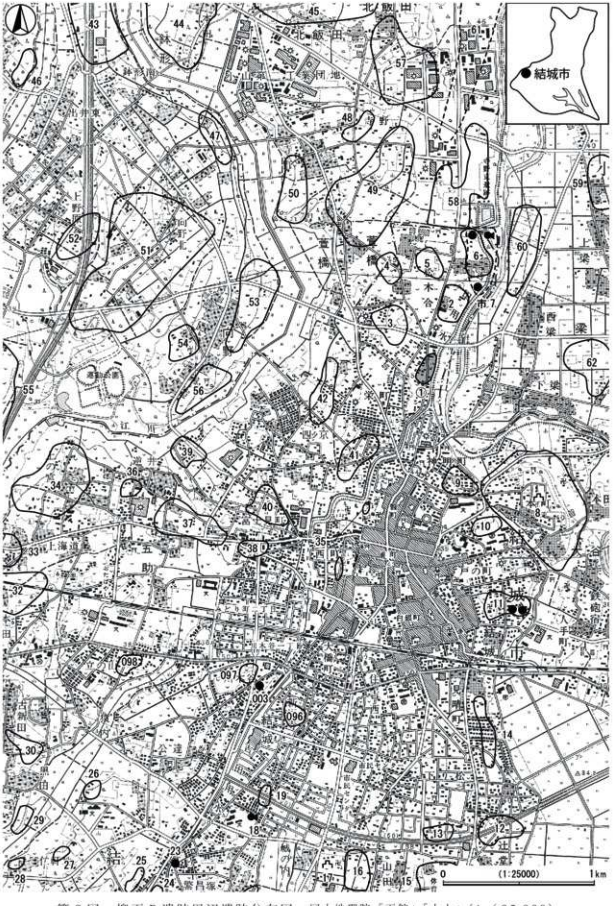
旧石器時代の遺跡としては、当遺跡から南東 5km にある才光寺遺跡から頁岩製のナイフ形石器と槍先形尖頭器がそれぞれ１点出土している。その他、峯崎遺跡〈15〉では頁岩製の剥片が表採されており、須久保塚古墳では槍先形尖頭器が１点出土している。小山市の鷹ノ巣前遺跡〈43〉・小山添遺跡〈45〉からは尖頭器が確認されている。

縄文時代の遺跡は、鬼怒川や田川、西仁連川流域の台地縁辺部に位置している。早期は、向原遺跡から撚糸文系の土器が出土している。小山市では鷹ノ巣前遺跡・観音堂遺跡〈54〉で確認されている。前期から後期にかけては遺跡が多くなり、松木合Ａ遺跡〈6〉は中期から晩期まで継続する。鹿窪坂の上遺跡は、中期から晩期にかけての集落で、土製耳飾りや土偶、亀形土製品といった豊富な遺物が出土した。小山市では、寺野東遺跡〈58〉において後期の水場遺構や環状盛土遺構が確認された。

弥生時代の遺跡は、当市内では松木合Ａ遺跡や西繁昌塚遺跡〈26〉、新田東遺跡〈30〉、香取前遺跡など縄文時代の遺跡と比較すると減少する傾向があり、その分布は市西部の西仁連川流域に集中する。近隣では、鬼怒川左岸の筑西市に位置する女方遺跡から、再葬墓群と人面付壺型土器が出土している。

古墳時代の集落遺跡は、西仁連川流域で善長寺遺跡・小田林遺跡などで多くの建物跡が確認されており、鬼怒川流域でも多くの集落遺跡が確認されている。古墳については、結城台地の東縁部の鬼怒川・田川沿いに古墳群が集中して分布し、小山市の西高椅古墳群〈61〉、梁古墳群、寺野東古墳群〈58〉が所在する。本市では、中期から後期の松木合古墳群〈7〉、前方後円墳２基を含む曽我殿台遺跡〈11〉、市内最大の円墳である備中塚古墳を含む林古墳群、終末期の長方墳である須久保塚古墳などが確認されている。

奈良時代になると律令制度に則って、この地は下総国結城郡に属し、本遺跡は高橋郷に属したと考えられる。集落遺跡としては、227 棟の竪穴建物跡や灰釉・緑釉陶器が出土した下り松遺跡〈12〉、49 棟の掘立柱建物跡や白磁・三彩・緑釉陶器が出土した峯崎遺跡などがあり、特に峯崎遺跡は官衙関連遺跡の可能性も指摘されている。さらに南方約３km には、結城廃寺跡がある。金堂跡や塔跡、講堂跡などが確認され、多量の土器や



第２図　柳下Ｂ遺跡周辺遺跡分布図　国土地理院「下館」「小山」（1／25,000）

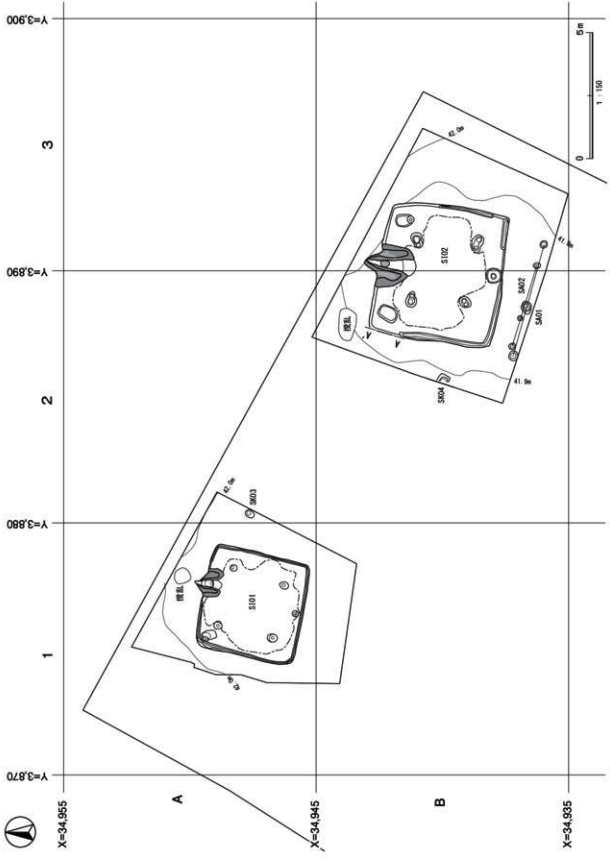
瓦をはじめとして、塑像や傳仏、棰先瓦など豊富な遺物が出土している。また、瓦は近くの結城八幡瓦窯跡群で焼成されたことが判明している。

中世になると本市域の北部を結城氏が、南部を山川氏が領有するところとなる。結城氏は、鎌倉時代下野押領使であった小山氏が寿永２(1183)年の志田義広の乱を契機として結城郡に地頭職を与えられ、小山政光の三男であった朝光を開祖として始まった一族である。結城氏は、結城郡を支配しながら、周辺の宇都宮氏や小田氏、多賀谷氏との争いに明けくれた。中世の遺跡は、結城氏や家臣団の城館跡として結城城跡〈8〉、城の内遺跡〈17〉などがある。

江戸時代になると、結城氏の名跡は徳川家康の次男で結城家に養子に入っていた18代秀康が越前国北ノ庄に転封することで絶える。秀康の越前転封後、結城は江戸幕府の直轄地となるが、元禄13(1700)年、水野家宗家の水野勝長が結城に転封となり、結城藩が起こる。以後、結城水野家が結城の領主として、幕末まで治めることとなる。

第１表　柳下Ｂ遺跡周辺遺跡一覧

番号	県番号	遺跡名	時代							番号	県番号	遺跡名	時代						
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世				旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
①	207029	柳下Ｂ遺跡					○			32	207091	本田北遺跡						○	
2	207028	柳下Ａ遺跡		○		○	○			33	207090	上海道遺跡					○		
3	207027	柳下Ｃ遺跡				○	○			34	207089	上ノ宮遺跡					○	○	
4	207026	松木台Ｃ遺跡				○	○			35	207024	御朱印堀						○	○
5	207025	松木台Ｂ遺跡		○		○	○			36	207088	長塚西遺跡					○	○	
6	207001	松木台Ａ遺跡		○	○	○	○	○		37	207087	長塚東遺跡					○	○	
7		松木台古墳群				○				38	207086	五本木遺跡						○	
8	207014	結城城跡		○		○	○	○	○	39	207085	四ツ京遺跡						○	
9	207031	永正塚遺跡		○				○		40	207084	逆井遺跡					○	○	
10	207032	鹿部屋遺跡		○						41	207083	相本原遺跡					○		
11	207002	曽我殿台遺跡		○		○	○			42	207030	砂窪Ａ遺跡					○		
12	207035	下り松遺跡		○		○	○	○		43	139-337	鹿ノ巣前遺跡		○	○	○	○	○	
13	207169	油内遺跡					○			44	140-367	鉢形遺跡		○	○	○	○	○	
14	207034	観音台遺跡		○		○				45	142-369	小山添遺跡	○	○			○		
15	207036	峯崎遺跡	○	○		○	○	○		46	145-335	東本郷遺跡			○	○	○		
16	207093	房山北遺跡		○						47	149-370	向野上野原Ａ遺跡		○	○	○	○		
17	207017	城の内遺跡		○			○	○	○	48	150-371	六道遺跡			○	○	○		
18	207004	天神山塚古墳				○				49	151-393	寺野遺跡		○		○	○		
19	207095	下山遺跡				○	○			50	152-373	西ノ台遺跡	○		○	○	○		
20	207096	黍塚遺跡					○	○		51	154-372	向野上野原Ｂ遺跡		○	○	○	○		
21	207003	和尚塚古墳				○				52	155-339	朝野初中学園前遺跡		○		○	○		
22	207097	公達遺跡						○		53	156-374	諏訪下遺跡		○			○		
23	207005	繁昌塚東古墳				○				54	157-375	観音堂遺跡		○		○	○		
24	207166	繁昌塚西遺跡								55	158-340	八幡根遺跡		○		○	○		
25	207073	西繁昌塚北遺跡								56	159-376	星宮神社前遺跡		○	○	○	○		
26	207076	西繁盛塚遺跡			○	○				57	185-381	北飯田遺跡		○		○	○		
27	207074	黒田向遺跡				○				58	186-381	寺野東遺跡		○		○	○		
28	207075	仁軒寺遺跡		○		○				59	187-415	上梁遺跡					○		
29	207066	黒田前遺跡		○		○				60	188-395	西梁遺跡				○	○		
30	207065	新田東遺跡		○	○	○		○		61	189-384	西高椅（組）古墳群				○			
31	207098	立の山遺跡					○			62	192-396	下梁遺跡					○		



第３図　遺跡全体図（１／１５０）

第３章　調査の成果

第１節　調査の概要

柳下Ｂ遺跡は、結城市の北部に位置し、国道４号の東側に広がる範囲である。今回調査対象となった地域は、田川西側の台地上に位置し対象面積 50㎡であり、古墳時代、奈良時代の遺跡である。

今回の調査で確認した遺構は、古墳時代の竪穴建物跡１棟、奈良時代の竪穴建物跡１棟、時期不明の柱穴列２条、土坑２基である。

遺物は、遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20㎝）に４箱出土しており、大半は古墳時代・奈良時代のものである。主な遺物は、竪穴建物跡から出土した土師器（坏・器台・鉢・甕）、須恵器（坏・高台付坏・甕）、土製品（管状土錘）、鉄製品（刀子・不明鉄製品）、銅製品（鈎帯具）、石製品（砥石）などである。

第２節　基本層序

調査区東側（Ｂ２グリット）にテストピットを設定し、深さ 1.0m まで掘り下げて基本層序の観察を行った。土層６層に分層された。土層の観察は以下の通りである。

第１層は褐色のソフトローム層で、ロームブロック・粒子を多量に含んでいる。粘性・締まりとも弱く、層厚は 10 ～ 18㎝である。

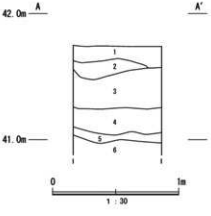
第２層はソフトローム層からの漸移層で、黄褐色のロームブロック多量に含んでいる。粘性・締まりともあり、層厚は１～ 16㎝である。

第３層は褐色のハードローム層で、ロームブロックを多量に含んでいる。粘性・締まりとも強く、層厚は 22 ～ 30㎝である。

第４層は暗褐色の黒色帯層で、ロームブロックを微量含んでいる。粘性・締まりとも強く、層厚は 18 ～ 20㎝である。

第５層は橙色のハードローム層から鹿沼パミス層への漸移層で、粘土粒子を含んでいる。粘性・締まりとも強く、層厚は５～ 10㎝である。

第６層は明黄褐色の鹿沼パミス層である。粘性は弱いが締まりは強く、層厚は 10㎝である。



第４図　基本層序

第３節　遺構と遺物

１　古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は、竪穴建物跡１棟を検出した。以下検出した遺構と遺物について記載する。

竪穴建物跡

第１号竪穴建物跡（SI-01）（第５～８図、PL １・　）

位置　調査区西部Ａ１グリット、標高 42 mに位置する。

確認状況　ローム層上面で確認した。

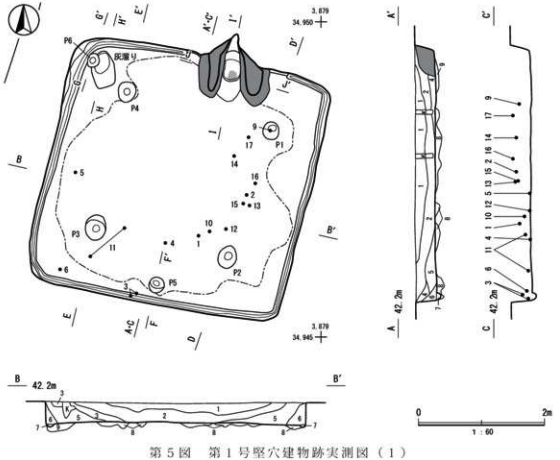
規模と形状　長軸 4.10 m、短軸 4.04 mで、平面形は方形である。主軸方位はＮ－ 15°－Ｅである。壁は確認面から最大高 34㎝で、ほぼ直立している。壁溝は、上幅 10~20㎝、下幅５~10㎝、深さ５㎝で、ほぼ全周している。断面形はＵ字形である。

床　ほぼ平坦な貼床で、竈前面から中央全体が固く締まっている。

竈　北壁中央東寄りにあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 110㎝である。袖部の基部の最大幅は約 130㎝で、両袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10㎝ほど掘りこんで火床面が構築されている。なお、煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。

土層　９層に分層できる。１層から３層は自然堆積状況で、４層から７層はロームブロック・粒子が含まれており、人為的な埋没状況が見られる。８・９層は貼床の構築土である。

ピット　床面からは、ピット６か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：



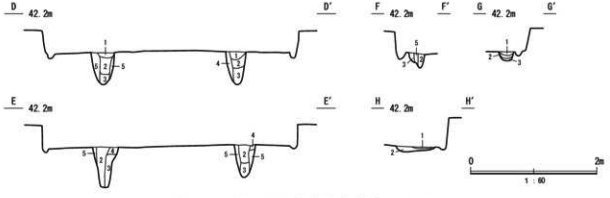
第５図　第１号竪穴建物跡実測図（１）

35 × 30㎝、深さ 54㎝、P 2：40 × 35㎝、深さ 50㎝、P 3：35 × 30㎝、深さ 62㎝、P 4：30 × 28㎝、深さ 52㎝、P 5：25 × 20㎝、深さ 20㎝、P 6：20 × 20㎝、深さ 15㎝である。

灰溜穴　北西コーナー部で長径 60㎝、短径 40㎝、深さ 10㎝楕円形の窪みを確認する。土師器甕片が検出される。

遺物出土状況　土師器片 235 点［坏 62 点（455g）、器台 1 点（265g）、甕 172 点（2,100g）］、須恵器片 2 点［坏 1 点（9g）、甕 1 点（105g）］、石 6 点（930g）。1・10・11 の土師器坏は中央部の覆土中層、4・5 の土師器坏は中央部の覆土下層、2 の土師器坏と 14 の土師器台付甕と 15・16 の土師器甕は東部の覆土上層、12 の土師器坏は東部の覆土下層から出土している。3 の土師器坏は、南壁の覆土中層から出土している。6 の土師器坏は北西部の覆土中層、9 の土師器坏は北東部の覆土中層、13 の土師器鉢と 17 の須恵器甕は北東部の覆土上層から出土している。7・8 の土師器坏は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から 7 世紀後葉と考えられる。覆土中層から上層にかけて出土している 1 ～ 3、9・10、14 ～ 17 は、建物廃絶後に投棄されたものか流れ込んだものと考えられる。



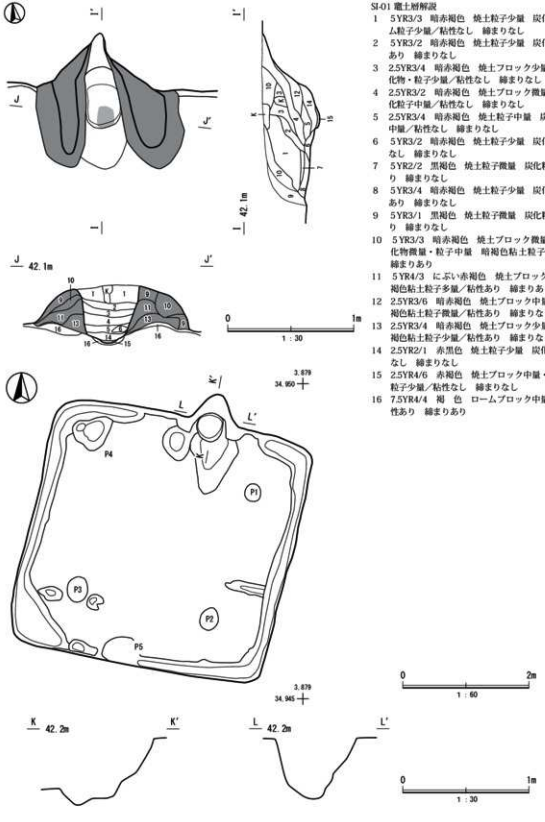
第 6 図　第 1 号竪穴建物跡実測図（2）

SI-01 土層解説
1　10YR3/1　黒褐色　ローム粒子微量　炭化粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　10YR3/2　黒褐色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　10YR3/4　暗褐色　ロームブロック・粒子中量　黒色土粒子少量／粘性あり　締まりなし
4　10YR2/3　黒褐色　ローム粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
5　10YR4/3　にぶい黄褐色　ロームブロック少量・粒子多量　焼土粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
6　10YR3/4　暗褐色　ローム粒子中量　焼土粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
7　10YR3/2　黒褐色　ローム粒子微量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし
8　10YR3/2　黒褐色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量　黒色土粒子中量／粘性あり　締まりあり
9　10YR3/2　黒褐色　ロームブロック少量　ローム粒子微量　炭化粒子中量　暗褐色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり

SI-01P1 ～ 5 土層解説
1　10YR3/4　暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
2　10YR3/2　黒褐色　ローム粒子少量　炭化粒子中量　黒色土粒子少量／粘性なし　締まりなし
3　10YR3/4　暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子少量　黒色土粒子少量／粘性あり　締まりなし
4　10YR3/3　暗褐色　ロームブロック・粒子少量　焼土粒子微量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
5　10YR4/4　褐　色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり

P6
1　10YR3/1　黒褐色　ローム粒子微量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性なし　締まりなし
2　10YR2/2　黒褐色　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性なし　締まりなし
3　10YR 4/4　褐　色　ロームブロック中量・粒子多量／粘性あり　締まりあり

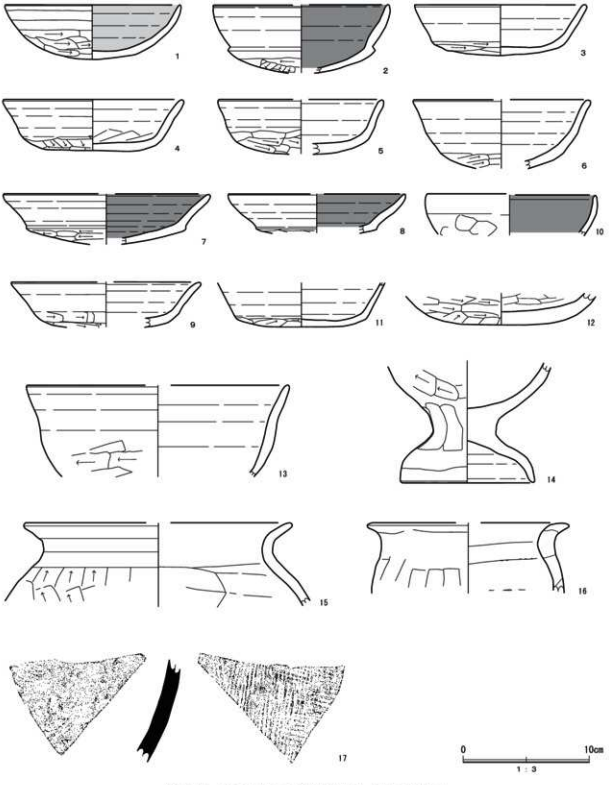
SI-01 炭溜穴土層
1　5YR3/4　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　炭微量／粘性なし　締まりなし
2　10YR4/4　褐　色　ロームブロック中量・粒子多量／粘性あり　締まりあり



SI-01 竪土層解説

1　5YR3/3　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　ローム粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　5YR3/2　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
3　2.5YR3/4　暗赤褐色　焼土ブロック少量・粒子多量　炭化物・粒子少量／粘性なし　締まりなし
4　2.5YR3/2　暗赤褐色　焼土ブロック微量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
5　2.5YR3/4　暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化物少量・粒子中量／粘性なし　締まりなし
6　5YR3/2　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし
7　5YR2/2　黒褐色　焼土粒子微量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
8　5YR3/4　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
9　5YR3/1　黒褐色　焼土粒子微量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
10　5YR3/3　暗赤褐色　焼土ブロック微量・粒子少量　炭化物微量・粒子中量　暗褐色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
11　5YR4/3　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粒子微量　暗褐色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
12　2.5YR3/6　暗赤褐色　焼土ブロック中量・粒子多量　暗褐色粘土粒子微量／粘性あり　締まりなし
13　2.5YR3/4　暗赤褐色　焼土ブロック少量・粒子多量　暗褐色粘土粒子少量／粘性あり　締まりなし
14　2.5YR2/1　赤黒色　焼土粒子少量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし
15　2.5YR4/6　赤褐色　焼土ブロック中量・粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
16　7.5YR4/4　褐　色　ロームブロック中量・粒子多量／粘性あり　締まりあり

第７図　第１号竪穴建物跡掘方実測図



第８図　第１号竪穴建物跡出土遺物実測図

第２表　第１号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.7	4.3	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部横位のヘラ削り　底部不定方向のヘラ削り　内底面不定方向のナデ　内面赤彩	中央部覆土中層	100% PL
2	土師器	坏	〔13.8〕	5.4	11.6	長石・石英角閃石	灰褐	普通	口縁部横ナデ　底部不定方向のヘラ削り　内底面ナデ　内面黒色処理	東部覆土上層	45% PL
3	土師器	坏	13.4	4.0	10.5	長石・石英スコリア	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　底部不定方向のヘラ削り　内底面ナデ	南壁覆土中層	50% PL
4	土師器	坏	13.9	4.1	10.4	長石・石英チャート・スコリア	にぶい橙	良好	口縁部・体部横ナデ　底部不定方向のヘラ削り内底面ナデ	中央部覆土下層	55% PL
5	土師器	坏	〔12.8〕	4.3	10.4	長石・石英スコリア	橙	良好	口縁部・体部横ナデ　底部不定方向のヘラ削り内底面ナデ	中央部覆土下層	25% PL
6	土師器	坏	〔13.7〕	(5.5)	〔9.7〕	長石・石英雲母・スコリア	黒褐	普通	口縁部横ナデ　体部ナデ　底部横位のヘラ削り内底面ナデ	西部覆土下層	20% PL
7	土師器	坏	〔16.2〕	(4.0)	〔12.6〕	長石・石英スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ　底部横位のヘラ削り内底面ナデ内面黒色処理	覆土中	10% PL
8	土師器	坏	〔14.0〕	(3.1)	〔9.5〕	長石・石英・チャート・角閃石	橙	普通	口縁部・体部横ナデ　底部外周ナデ底部横位のヘラ削り　内底面ナデ内面黒色処理	覆土中	10% PL
9	土師器	坏	〔14.8〕	(3.6)	〔11.5〕	長石・石英スコリア	にぶい黄橙	良好	口縁部・体部横ナデ　底部不定方向のヘラ削り内底面ナデ	北東部覆土中層	10% PL
10	土師器	坏	〔13.6〕	(3.2)	－	長石・石英	黒褐	良好	口縁部横ナデ　体部ナデ　内面黒色処理	中央部覆土中層	5% PL
11	土師器	坏	－	(3.6)	10.2	長石・石英スコリア	橙	良好	体部横ナデ　底部不定方向のヘラ削り　内底面ナデ	中央部～南西部覆土中層	25% PL
12	土師器	坏	－	(2.5)	－	長石・石英スコリア	にぶい黄褐	普通	底部不定方向のヘラ削り　内底面ナデ後、ヘラ状工具によるミガキ	東部覆土下層	20% PL
13	土師器	鉢	〔20.6〕	(7.2)	－	長石・石英・チャート・スコリア	にぶい橙	普通	体部上位・内面横ナデ　体部下位斜位のヘラ削り	北東部覆土上層	5% PL
14	土師器	台付甕	－	(9.5)	〔10.3〕	長石・石英・チャート・スコリア	にぶい黄褐	普通	体部斜位のヘラ削り　体部内面ナデ台部上位縦位のヘラ削り　台部下位横ナデ　台部内面ナデ	東部覆土上層	25%　二次焼成　PL
15	土師器	甕	〔20.0〕	(6.6)	－	長石・石英・チャート・スコリア	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部斜位のヘラ削り体部内面ナデ	東部覆土上層	5% PL
16	土師器	甕	〔15.2〕	(15.6)	－	長石・石英チャート	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　口縁部内面横ナデ後縦位のナデ体部縦位のヘラ削り体部内面横位のナデ	東部覆土上層	5% PL
17	須恵器	甕	－	(9.0)	－	雲母	灰黄褐	普通	外面横位と縦位の直交する平行叩き内面同心円文の当具痕	北東部覆土上層	5%　胴の内窠　PL

2　奈良時代の遺構と遺物

奈良時代の遺構は、竪穴建物跡１棟を検出した。以下検出した遺構と遺物について記載する。

竪穴建物跡

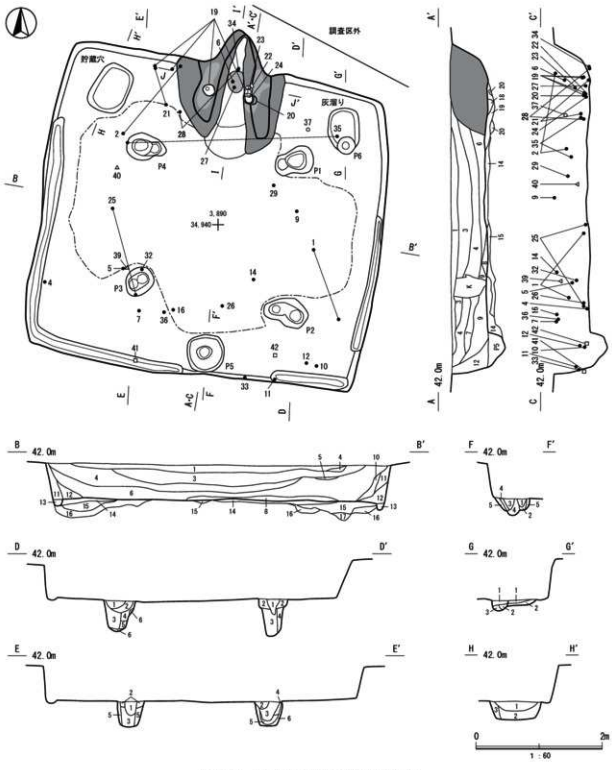
第２号竪穴建物跡（SI-02）（第９～15図、PL１・２・　）

位置　調査区西部Ｂ２～Ｂ３グリットに位置し、標高42ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

規模と形状　長軸5.40ｍ、短軸5.00ｍで、平面形は方形である。主軸方位はＮ－10°－Ｅである。壁は確認面から最大58cmで、ほぼ直立している。壁溝は、東壁・南壁・西壁の一部で確認でき、上幅18～30cm、下幅６～10cm、深さ10cmで、断面形はＵ字形を呈している。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。



第９図　第２号竪穴建物跡実測図

SI-02 土層解説

1　10YR3/1　黒褐色　ローム粒子微量　焼土粒子微量　炭化粒子中量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり

2　5YR3/3　暗赤褐色　ローム粒子微量　焼土粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし

3　10YR3/3　暗褐色　ロームブロック少量・粒子中量　焼土粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

4　10YR3/2　黒褐色　ロームブロック微量・粒子少量　焼土粒子微量　炭化粒子中量　暗褐色粘土粒子少量／粘性あり　締まりなし

5　10YR3/3　暗褐色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし

6　10YR3/4　暗褐色　ロームブロック・粒子少量　焼土粒子微量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし

7　10YR3/4　暗褐色　ロームブロック・粒子中量　焼土粒子微量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

8　10YR4/3　にぶい黄褐色　ロームブロック多量・粒子中量　焼土粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

9　10YR3/3　暗褐色　ロームブロック少量・粒子中量　焼土粒子少量　炭化粒子多少量／粘性あり　締まりなし
10　10YR3/3　暗褐色　ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化物少量・粒子中量／粘性なし　締まりなし
11　10YR4/4　褐　色　ロームブロック・粒子多量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
12　10YR3/2　黒褐色　ロームブロック微量・粒子少量　焼土粒子微量　炭化粒子少量　黒色土粒子中量／粘性あり　締まりなし
13　10YR3/2　黒褐色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
14　7.5YR3/4　暗褐色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
15　7.5YR3/3　暗褐色　ロームブロック少量・粒子中量　焼土粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
16　7.5YR4/4　褐　色　ロームブロック微量・粒子少量　焼土粒子微量　炭化粒子中量　暗褐色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
17　7.5YR3/4　暗褐色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量　鹿沼パミス少量／粘性あり　締まりあり
18　7.5YR4/2　灰褐色　ローム粒子少量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
19　7.5YR5/2　灰褐色　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
20　7.5YR6/1　褐灰色　ローム粒子少量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり

SI-02 P1 ～ P5 土層解説
1　7.5YR3/2　黒褐色　ローム粒子微量　炭化粒子多量／粘性あり 締まりなし
2　7.5YR3/3　暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子中量　暗褐色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR3/4　暗褐色　ロームブロック微量・粒子中量　炭化粒子中量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR3/3　暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子中量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりなし
5　7.5YR3/3　暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子中量／粘性あり　締まりなし
6　7.5YR4/4　褐　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり

P6
1　7.5YR3/2　黒褐色　ローム粒子微量　焼土粒子微量　炭化粒子多量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR3/1　黒褐色　ローム粒子微量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR3/3　暗褐色　ロームブロック少量・粒子中量　焼土粒子微量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

SI-02 貯蔵穴土層解説
1　7.5YR2/2　黒褐色　ローム粒子中量　焼土粒子中量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR5/4　にぶい褐色　ロームブロック中量・粒子少量　炭化粒子中量　鹿沼パミス中量／粘性なし　締まりなし
3　7.5YR2/4　暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子中量　鹿沼パミス微量／粘性あり　締まりあり

SI-02 灰溜穴土層解説
1　7.5YR3/3　暗褐色　ローム粒子少量　焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR4/2　灰褐色　ロームブロック少量・粒子中量　焼土粒子微量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

竈　北壁中央にあり、灰白色粘土の上部に暗褐色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 210cmである。袖部の基部の最大幅は約 150cmで、袖部は土師器甕を重ねて補強材に使用して比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口には灰白色粘土を貼り付け、床面から 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

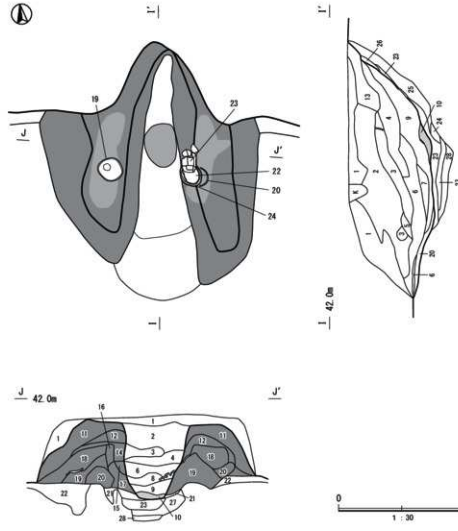
土層　13 層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれており、人為的な埋没状況が見られる。14・15 層は貼床の構築土である。

ピット　床面からは、ピット 6 か所が検出された。P 1 ～ P 4 は主柱穴、P 5 は出入口施設と考えられる。P 1：64 × 45cm、深さ 60cm、P 2：70 × 45cm、深さ 50cm、P 3：45 × 40cm、深さ 45cm、P 4：60 × 40cm、深さ 40cm、P 5：60 × 55cm、深さ 28cm、P 6：25 × 25cm、深さ 15cmである。P 1 ～ P 4 は建て替えが行われた痕跡がみられた。

貯蔵穴　北西コーナー部で長径 75cm、短径 60cm、深さ 30cm楕円形の掘り込みを確認する。

灰溜穴　北東コーナー部で長径 74cm、短径 50cm、深さ 10cm楕円形の窪みを確認する。土師器甕片が検出される。

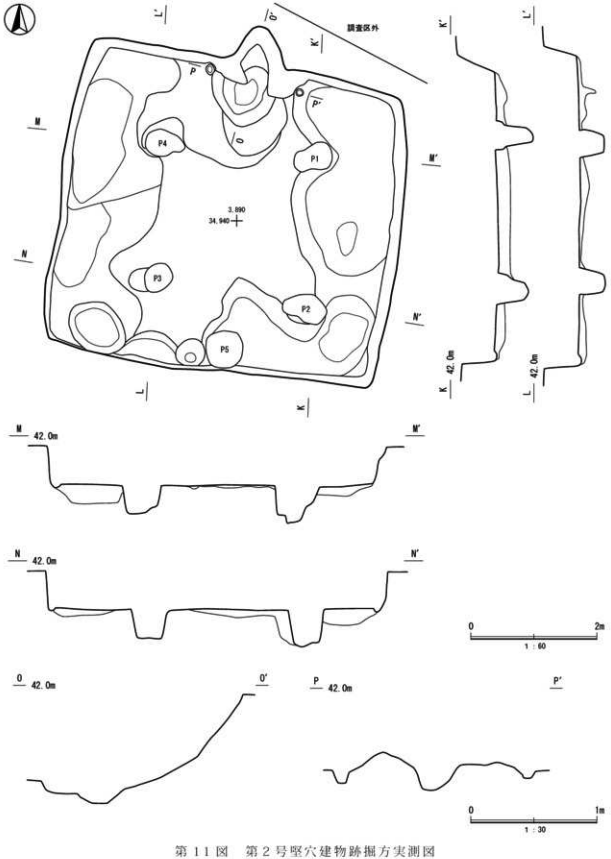
遺物出土状況　土師器片 1,462 点 [坏 145 点（1,130g）、台付甕 2 点（163g）、甕 1,315 点（15,300g）]、須恵器片 99 点 [坏 87 点（759g）、瓶 2 点（40g）、甕 10 点（2,877g）]、灰釉陶器 2 点（20g）、鉄製品 2 点（38g）、青銅製品 1 点（5g）、土製品 1 点（2g）、石製品 2 点（196g）、石 9 点（852g）。1 の土師器坏は東部の覆土中層から下層、2 の土師器坏は北西部の覆土上層、40 の青銅製鈴帯具（巡方）は北西部の覆土下層、4 の須恵器坏は西壁の床面から出土している。5 の須恵器坏は南西部覆土中層、25 の土師器甕は西部の床面、6 の須恵器坏、27・28 の土師器甕、34 の土師器小型甕は竈内、7 の須恵器坏・39 の不明鉄製品・36 の土師器小型甕は南西部の覆土上層から出土している。9 の須恵器坏は東部の覆土上層、37 の管状土錘は北東部の覆土中層、35 の土師器小型甕は北東部の覆土下層から出土している。10 の須恵器坏・12 の須恵器高台付坏は南東部の床面、11 の須恵器高台付坏は南壁の覆土下層、33 の須恵器甕・41 の砥石は南壁の床面、14 の灰釉陶器托は中央部の覆土上層、29 の土師器甕は中央部の覆土中層、18 の土師器台付甕は南部の覆土上層から出



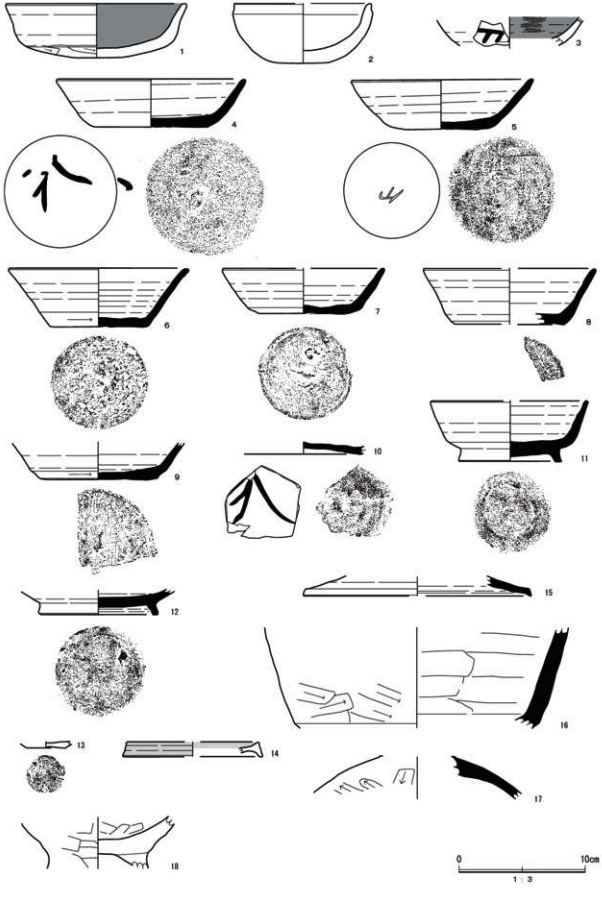
第 10 図　第 2 号堅穴建物跡遺実測図

SI-02 遺土層解説

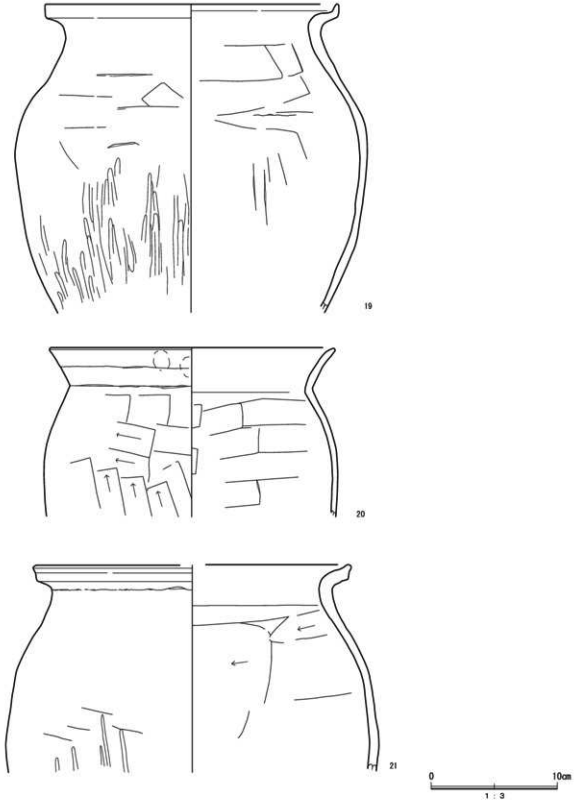
1　5YR3/2　暗赤褐色　ローム粒子微量　焼土粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりおり
2　5 YR3/4　暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化物微量・粒子中量　暗褐色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　5 YR3/1　黒褐色　焼土粒子微量　炭化物少量・粒子中量　暗褐色粘土粒子微量／粘性あり　締まりなし
4　5 YR4/2　灰褐色　焼土粒子微量　炭化物微量・粒子少量　暗褐色粘土粒子中量／粘性あり　締まりなし
5　5 YR5/1　褐灰色　焼土粒子微量　炭化粒子少量　暗褐色粘土粒子多中量／粘性あり　締まりあり
6　2.5YR3/6　暗赤褐色　焼土粒子多量　炭化物微量・粒子少量　灰白色粘土粒子少量／粘性なし　締りなし
7　2.5YR2/4　極暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
8　2.5YR3/1　暗赤灰色　焼土粒子少量　炭化粒子多量　暗褐色粘土粒子少量　灰多量／粘性なし　締まりなし
9　2.5YR 3/4　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子少量　灰少量／粘性あり　締まりなし
10　2.5YR 4/6　赤褐色　焼土粒子多量　炭化粒子少量　灰中量／粘性なし　締まりなし
11　5 YR4/3　にぶい赤褐色　ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化粒子少量　暗褐色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
12　5 YR3/4　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　暗褐色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
13　2.5YR4/1　赤灰色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　暗褐色粘土粒子多量／粘性あり　締まりなし
14　2.5YR4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　暗褐色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
15　2.5YR/2　灰赤色　焼土粒子中量　炭化粒子中量　暗褐色粘土粒子中量　灰多量／粘性あり　締まりなし
16　2.5YR4/4　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粒子中量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
17　2.5YR5/1　赤灰色　焼土粒子少量　炭化粒子微量　灰白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
18　2.5YR5/2　灰赤色　焼土ブロック・粒子少量　炭化粒子微量　暗褐色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
19　2.5YR6/1　赤灰色　焼土粒子微量　灰白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
20　5YR7/1　明褐灰色　灰白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりなし
21　2.5YR 3/4　暗赤褐色　焼土ブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりなし
22　2.5YR 2/2　極暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりなし
23　2.5YR3/2　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
24　2.5YR3/3　暗赤褐色　焼土ブロック少量・粒子中量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし
25　2.5YR3/2　極暗赤褐色　焼土ブロック・粒子微量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし
26　2.5YR4/8　赤褐色　焼土ブロック多量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
27　2.5YR3/6　暗赤褐色　焼土ブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
28　2.5YR3/4　暗赤褐色　焼土ブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし



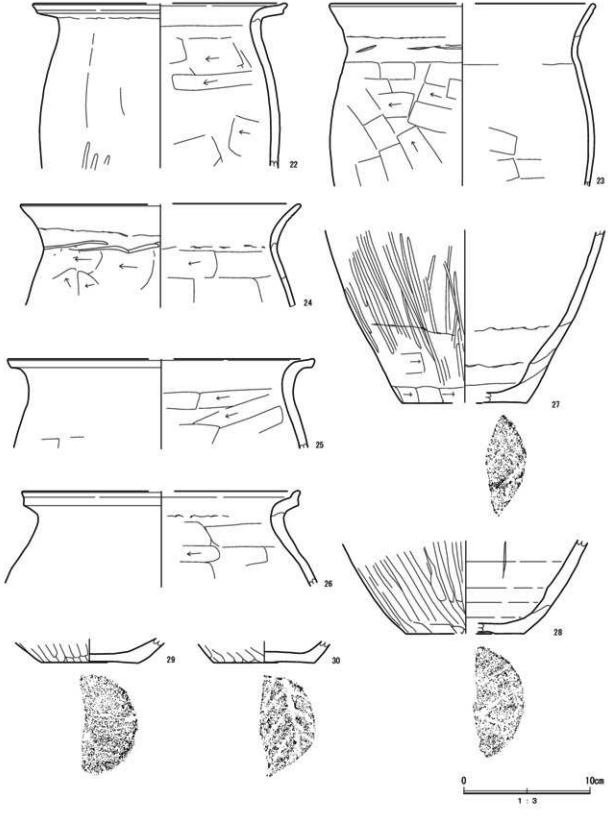
第 11 図　第 2 号竪穴建物跡掘方実測図



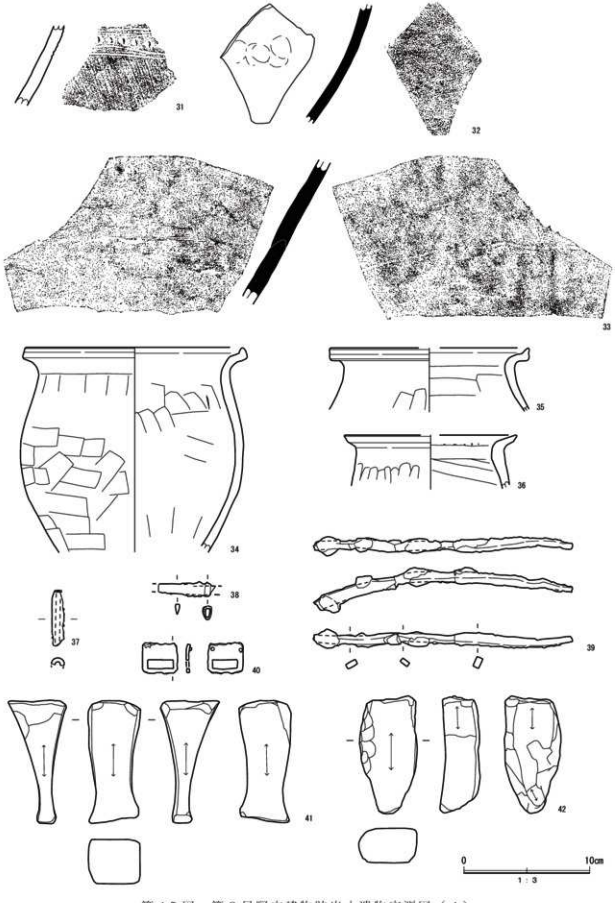
第１２図　第２号竪穴建物跡実測図（１）



第１３図　第２号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）



第14図　第2号竪穴建物跡出土遺物実測図（3）



第 15 図　第 2 号竪穴建物跡出土遺物実測図（4）

土している。19の土師器甕は北壁から竈左袖、20・22・23・24の土師器甕は竈右袖内、21の土師器甕は北西部の覆土下層から床面、26の土師器甕は南部の覆土下層、42の砥石は南部の床面、32の須恵器甕は南西部の覆土下層から出土している。3の土師器坏・8の須恵器坏・15の須恵器蓋・13の土師器小皿・38の刀子は、覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。覆土中層から上層にかけて出土した6・8、9、13～15は、8世紀後葉以降のもので建物廃絶後に投棄されたものか流れ込んだものと考えられる。

第3表　第2号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.9]	4.3	11.0	長石・石英 スコリア	浅黄橙	普通	口縁部・体部横ナデ　底部一方向のヘラ削り 内底面ナデ　内面黒色処理	東部覆土 中層～下層	70% PL
2	土師器	坏	[10.6]	(4.8)	—	石英・長石 チャート・スコリア	明赤褐	普通	口縁部横ナデ	北西部 覆土上層	45% PL
3	土師器	坏	—	(2.2)	—	石英・長石	明黄褐	普通	体部上位ロクロナデ　体部下位横位のヘラ削り 内面横位のヘラ磨き　黒色処理	覆土中	5%　底部に墨書「長カ」 PL
4	須恵器	坏	14.7	3.8	8.9	石英・長石	灰白	やや不良	口縁部・体部ロクロナデ　底部中央部に回転ヘラ切り痕を残す回転ヘラ削り	南壁床面	95%　底部に墨書「□」 三森山館窯 PL
5	須恵器	坏	14.1	4.0	7.6	石英・長石	黄灰	普通	口縁部・体部ロクロナデ　底部ヘラ切り後ナデ 木目圧痕有り　内底面ヘラ状工具によるナデ	南西部 覆土中層	75%　ヘラ記号「山」 益子窯か PL
6	須恵器	坏	14.1	4.6	7.7	長石・石英	灰白	やや不良	口縁部　体部ロクロナデ　底部中央部に回転ヘラ切り痕を残す回転ヘラ削り	竈内	70% 三森山館窯
7	須恵器	坏	[12.6]	3.6	7.3	石英・長石	灰	普通	口縁部・体部ロクロナデ　底部回転ヘラ切り痕を残すナデ	南西部 覆土上層	55%　益子窯 底部にヘラ記号　PL
8	須恵器	坏	[13.5]	4.4	[8.6]	石英・長石・雲母	灰黄褐	普通	口縁部・体部ロクロナデ　底部回転ヘラ削り	覆土中	20%　体部に火襷痕　産地不明　PL
9	須恵器	坏	—	(2.9)	[9.2]	石英・長石・スコリア	灰黄	普通	体部ロクロナデ　底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	東部 覆土上層	10%　益子窯 PL
10	須恵器	坏	—	(0.9)	—	石英・長石・雲母	灰黄	普通	底部中央部に回転ヘラ切り痕を残し、外周部ヘラ削り	南東部床面	5%　底部墨書「□」 新治窯か PL
11	須恵器	高台付坏	[12.2]	4.8	7.9	石英・長石	灰	普通	口縁部・体部ロクロナデ　底部回転ヘラ削り	南壁 覆土下層	55%　瓶の内窯　PL
12	須恵器	甕	—	(2.0)	9.2	石英・長石	灰	普通	体部ロクロナデ　底部回転ヘラ削り	南東部床面	20%　瓶の内窯　PL
13	土師質土器	小皿	—	(0.6)	[3.0]	石英・金雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り　内底面ロクロナデ	覆土中	5% PL
14	灰釉陶器	托	[10.4]	1.2	[10.9]	細砂・黒色粒	にぶい黄橙 釉　オリーブ黒	良好	全面ロクロナデ　側面・内面施釉	中央部 覆土上層	5% 黒笹14号 PL
15	須恵器	蓋	—	(1.6)	[17.8]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口縁部ロクロナデ	覆土中	5%　新治窯 PL
16	須恵器	鉢	—	(8.0)	—	石英・長石	灰黄	普通	体部上位横位の平行叩きを消すナデ　体部下位横位のヘラ削り　体部内面横位のナデ	覆土中	5%　瓶の内窯　PL
17	須恵器	壺	—	(3.4)	—	石英・長石	灰黄	普通	体部斜位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土中	5%　産地不明　PL
18	土師器	台付甕	—	(4.1)	—	石英・長石・チャート・角閃石 スコリア	にぶい褐	普通	体部・台部ナデ	南部 覆土上層	5% 二次焼成 PL
19	土師器	甕	23	(24.4)	—	石英・長石 雲母・スコリア	褐	普通	口縁部横ナデ　上位横位と斜位のヘラ削り下位縦位のヘラ磨き　内面上位横位のヘラナデ下位縦位のヘラナデ　輪積痕	北壁～ 竈左袖内	40% PL
20	土師器	甕	22.2	(13.5)	—	石英・長石 雲母・スコリア	明赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面上位横位のヘラ削り下位縦位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ	竈右袖内	15% PL

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
21	土師器	甕	[24.8]	(16.4)	—	石英・長石 雲母・スコリア	明赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラナデ　内面横位のヘラナデ	北西部覆土 下層～床面	10% PL
22	土師器	甕	[19.7]	(13)	—	石英・長石 雲母・スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ　体部縦位のヘｒナデ　内面横位のヘラナデ	竈右袖内	10% PL
23	土師器	甕	[20.7]	(14.5)	—	石英・長石 チャート・スコリア	明赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部上位横位のヘラ削り下位斜位のヘラ削り　内面面横位のナデ	竈右袖内	10% PL
24	土師器	甕	[22.0]	(8.1)	—	石英・長石・角閃石・スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ　体部縦位のヘラ削り内面横位のヘラナデ	竈右袖内	10% PL
25	土師器	甕	[24.2]	(7.1)	—	石英・長石・ 雲母・スコリア	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部縦位のヘラナデ内面横位のヘラナデ	南西部床面	5% PL
26	土師器	甕	[21.6]	(7.6)	—	石英・長石・ 雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部横位のナデ　内面横位のヘラナデ	南部 覆土下層	5% PL
27	土師器	甕	—	(13.7)	[9.7]	石英・長石・ 雲母	褐灰	普通	体部縦位のヘラミガキ　下位横位のヘラ削り後縦位のヘラミガキ　内面縦位のナデ　底部木葉痕	竈内	5% 二次焼成 PL
28	土師器	甕	—	(7.4)	[9.2]	石英・長石・ 雲母	にぶい 黄橙	普通	体部縦位の粗いヘラ磨き	竈内～ 竈左袖	5% PL
29	土師器	甕	—	(1.9)	[7.5]	石英・長石・ チャート	にぶい橙	普通	体部縦位のヘラ磨き　内面横位のヘラナデ　底部一方向のヘラ削り	中央部 覆土中層	5% PL
30	土師器	甕	—	(1.7)	[7.9]	石英・長石・ 雲母	にぶい 黄橙	普通	体部縦位のヘラ磨き　内面ナデ　底部木葉痕	覆土中	5% PL
31	土師器	甕	—	(6.9)	—	石英・長石	にぶい 黄橙	普通	体部斜位のヘラ磨きの後、2条の平行凹線を2段に施文し、その間にヘラ状工具の先端にて連続刺突文を施文　内面横位のヘラナデ	覆土中	5% PL
32	須恵器	甕	—	(9.5)	—	石英・長石	灰	普通	体部同心円文の叩き　内面無文の当具痕を消すナデ	南西部 覆土下層	5%　堀の内 黒ヵ　PL
33	須恵器	甕	—	(11.4)	—	石英・長石	灰	普通	体部片　外面斜位の平行叩き　内面無文の当て具痕	南壁床面	5% 堀の内窯 PL
34	土師器	小形甕	17.1	(16.3)	—	石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部横位のヘラ削り　内面縦位のヘラナデ	竈内	55% 二次焼成 PL
35	土師器	小形甕	[15.6]	(5.0)	—	石英・長石・ 雲母	にぶい 黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部横位のヘラ削り　内面縦位のヘラナデ	北東部 覆土下層	5% PL
36	土師器	小形甕	[13.4]	(4.3)	—	石英・長石	にぶい 赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部縦位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ	南西部 覆土上層	5% PL

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
37	管状 土錘	1.0	(4.4)	0.32	(2.0)	石英・長石	橙	表面ナデ	北東部 覆土中層	35% PL

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
38	刀子	(4.5)	(0.9)	0.7	(4.8)	鉄	刃部の一部　茎部欠損　貴金具遺存	覆土中	PL
39	不明鉄 製品	(20.5)	0.85	0.5	(32.1)	鉄	中央部の4.7cmが細く、両側は形状が異なりやや太い	南西部 覆土上層	PL
40	跨帯具	2.43	2.8	0.24	(5.0)	銅	遠方　下部に長方形の透孔（2.0 × 0.7cm）　裏面に留鋲2か所	北西部 覆土下層	PL

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
41	砥石	9.68	4.19	4.64	(135.8)	凝灰岩	砥面4面	南壁床面	PL
42	砥石	9.3	4.6	3.2	(160.5)	凝灰岩	砥面3面	南部床面	PL

3．時期不明の遺構と遺物

時期不明の遺構は、柱穴列２条、土坑２基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

（1）柱穴列

第１号柱穴列（SA-01）（第 16 図、PL ２・　）

位置　調査区西部Ｂ２～Ｂ３グリットに位置し、標高 42 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

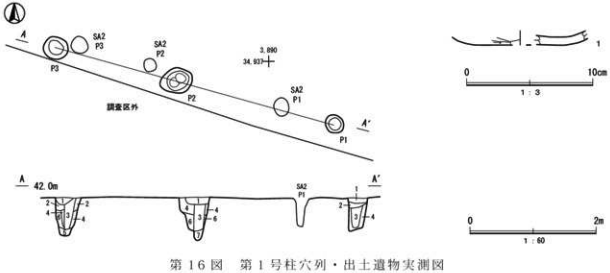
重複関係　第２号柱穴列と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造　東西方向 4.70m の間に並ぶ柱穴３か所を確認した。配列方向は N―80°―Wである。柱間寸法はＰ１－Ｐ２間が 2.60m（９尺）、Ｐ２－Ｐ３間が 2.10m（７尺）である。Ｐ１～３の底面で柱の当たりは確認できなかった。

柱穴　３か所。平面形は円形で、径 30 ～ 54cmである。深さ 45 ～ 65cmで、掘方の壁は直立している。第４～６層は掘方への埋土で、第３層は柱抜き取り後の覆土である。

遺物出土状況　土師器坏片１点（11g）。１の土師器坏はＰ３内から出土している。

所見　出土遺物が細片のため、時期は不明である。



第 16 図　第１号柱穴列・出土遺物実測図

SA-01 土層解説

1　10YR3/3　暗褐色　ロームブロック微量・粒子少量　焼土粒子微量　炭化粒子少量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり

2　10YR3/4　暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり

3　10YR3/1　黒褐色　ローム粒子微量　炭化粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし

4　10YR3/3　暗褐色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり

5　10YR3/2　黒褐色　ローム粒子少量　炭化粒子中量　黒色土粒子中量／粘性あり　締まりあり

6　10YR3/3　暗褐色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

第４表　第１号柱穴列出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	—	(1.2)	—	石英・長石	灰褐	普通	削り後ナデ	P3 覆土中	5%

第２号柱穴列（SA-02）（第 17 図、PL ２）

位置　調査区西部Ｂ２～Ｂ３グリットに位置し、標高 42 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

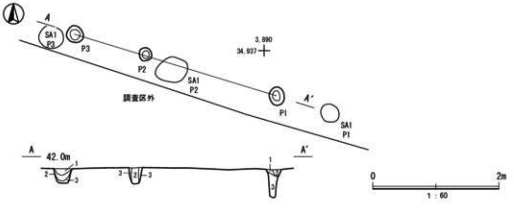
重複関係　第１号柱穴列と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造　東西方向 3.30m の間に並ぶ柱穴３か所を確認した。配列方向は N―75°―Wである。柱間寸法はＰ１－Ｐ２間が 2.10m（７尺）、Ｐ２－Ｐ３間が 1.16m（４尺）である。Ｐ１～３の底面で柱の当たりは確認できなかった。

柱穴　３か所。平面形は円形で、径 20 ～ 34㎝である。深さ 24 ～ 44㎝で、掘方の壁は外傾している。第３層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　遺物は検出されなかった。

所見　出土遺物がなかったため、時期は不明である。



第 17 図　第２号柱穴列実測図

SA-02 土層解説
1　10YR4/4　褐　色　ロームブロック・粒子中量　黒色土粒子少量／粘性　あり　締まりあり
2　10YR3/1　黒褐色　ローム粒子微量　炭化粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　10YR3/3　暗褐色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり

第５表　時期不明柱穴列一覧

番号	位置	主軸方向	長さ（m）	柱間（m）	規模					主な出土遺物	備考 重複関係 旧→新
					柱穴数	平面形	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）		
1	B2 ～ B3	N － 80°－ W	4.70	2.60・2.10	3	円形	30 ～ 54	30 ～ 54	45 ～ 65	土師器	SA2 新旧不明
2	F3 ～ F4	N － 75°－ W	3.30	2.10・1.16	3	円形	20 ～ 34	20 ～ 34	24 ～ 44	－	SA1 新旧不明

（2）土坑

第３号土坑（SK-03）（第 18 図）

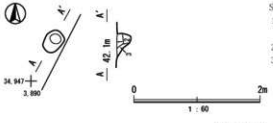
位置　調査区中央部。Ａ２グリット、標高 42m ほどに位置している。

規模と形状　長径 0.30m、短径 0.26m で、平面形は円形である。深さは 22cmである。南北径方向はＮ－30°－Ｅである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。第１層は若干のロームブロックが含まれることから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況　検出されなかった。

所見　時期は、不明である。



SK-03 土層解説
1　10YR3/2　黒褐色　ロームブロック微量・粒子少量　焼土粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりなし
2　10YR3/3　暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
3　10YR3/4　暗褐色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし

第 18 図　第３号土坑実測図

第４号土坑（SK-04）（第 19 図）

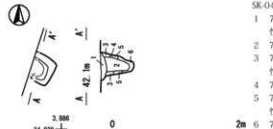
位置　調査区中央部。Ｂ２グリット、標高 42m ほどに位置している。

規模と形状　長径 0.40m、短径 0.32m しか確認できず、平面形は方形と推測される。深さは 50cmである。南北径方向はＮ－45°－Ｗである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　６層に分層できる。第１層は若干のロームブロックが含まれることから人為堆積と考えられる。第３～６層は掘方への埋土で、第２層は柱抜き取り後の覆土と考えられる。

遺物出土状況　遺物は検出されなかった。

所見　時期は、不明である。調査区外に延びて柱穴列か掘立柱建物跡になる可能性も考えられる。



SK-04 土層解説
1　7.5YR3/4　暗褐色　ロームブロック微量・粒子中量　焼土粒子微量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR3/3　暗褐色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR3/3　暗褐色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子中量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR4/3　褐　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR3/2　黒褐色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
6　7.5YR3/3　暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

第 19 図　第４号土坑実測図

第６表　時期不明土坑一覧

番号	位置	長径（軸）方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	備考 重複関係 （旧→新）
				長径（軸）×短径（軸）（m）	深さ（cm）						
3	A 1	N－30°－E	円形	0.30 × 0.26	24 ～ 44	外傾	平坦	人為	－	時期不明	
4	B 2	N－45°－W	円形	0.40 ×（0.32）	50	外傾	平坦	人為	－	時期不明	

第4章　まとめ

今回の調査で、古墳時代の竪穴建物跡1棟、奈良時代の竪穴建物跡1棟、時期不明の柱穴列2条、土坑2基を検出した。ここでは、検出した遺構と出土遺物について、時代ごとに概要を記し、まとめとする。

1　古墳時代

西部で第1号竪穴建物跡が検出され、平面形は一辺の長さが4mの方形であり小形建物である[1)]。確認面からの掘り込みは、30cmである。主軸方向はN―15°―Eである。竈は、北壁の中央部から右寄りに構築されており、袖は暗褐色の粘土を使用している。

2　奈良時代

東部で第2号竪穴建物跡を検出した。平面形は一辺の長さが5mの方形であり中型建物である[2)]。確認面からの掘り込みは、60cmと深い。主軸方向はN―10°―Eである。竈は北壁中央に構築されており、袖部の補強材に土器片を使用している。主柱穴の立て替えも確認され、長期に渡り使用されていたと考えられる。

出土土器について見ると、益子窯産や堀の内窯産、三滝山山麓窯産、新治窯産の須恵器が出土しており、多地域からの製品が供給されていたことを示している。また、硯に転用しようとした須恵器の高台付坏や刀子・砥石、青銅製の鈴帯具（巡方）、灰釉陶器の托など出土している。

ほかに、第2号竪穴建物跡から須恵器坏底部に「□」、土師器坏体部に「長ヵ」と墨書されたものや須恵器坏底部に「山」とヘラ書きされたものが出土している。

なお、集落としては古墳時代後期の7世紀後葉から継続しており、8世紀後葉以降の坏などが出土していることや、当遺跡の北西200mに位置する柳下C遺跡[3)]から9世紀前葉の竪穴建物跡が確認されていることなどから、周辺に同時期またはそれ以降の集落が形成されていたとみられる。

3　時期不明

調査区内で柱穴列を検出したが、出土遺物も少なく時期不明としたが、調査区外に延びる掘立柱建物跡になる可能性も考えられる。

4　おわりに

以上、当遺跡における古墳時代・奈良時代について若干の考察を行った。これまでの過去の調査と合わせることにより、古墳時代から奈良・平安時代の集落の有り方を多少なりとも把握することができた。今回の調査結果が、本県並びに当地域における歴史解明の一助となれば幸いである。

注）

1）竪穴建物跡の規模は、30㎡以上を大形、30㎡未満20㎡を中形、20㎡未満を小形とした。

2）註1と同じ

3）齊藤達也　常深高　2016『柳下C遺跡』結城市文化財報告書第10集　結城市教育委員会

参考文献

・阿久津久他 1980『鹿窪坂の上遺跡』発掘調査概報　結城市文化財調査報告書第１集　結城市教育委員会

・斉藤伸明 1989『結城廃寺』第１次発掘調査概報　結城市文化財調査報告書第４集　結城市教育委員会

・斉藤伸明 1991『結城廃寺』第３次発掘調査概報　結城市文化財調査報告書第６集　結城市教育委員会

・松田政基・斉藤伸明他 1996『峯崎遺跡』結城市文化財調査報告書第７集　結城市

・斉藤伸明 1999『結城廃寺』結城市文化財調査報告書第８集　結城市教育委員会

・川津法伸・平石尚和 1999『一般国道 50 号線結城バイパス内改築工事地内埋蔵文化財報告書　下り松遺跡・油内遺跡』茨城県教育財団埋蔵文化財調査報告第 145 集　（財）茨城県教育財団

・斉藤伸明・新里康他 2010『須久保塚古墳』結城第一工業団地矢畑地区土地区画整理組合

・斉藤伸明・土生朗治 2014『下り松遺跡』結城市文化財調査報告　結城市教育委員会

・齊藤達也・有山泛世・土生朗治他 2020『城の内遺跡Ⅱ』結城市文化財調査報告書第 11 集　結城市教育委員会

・結城市史編纂委員会 1980『結城市史』第４巻　古代中世通史編　結城市

・小山市史編纂委員会 1981『小山市史』史料編（原始　古代）小山市

写　真　図　版

1．基本層序

2．第１号竪穴建物跡確認状況

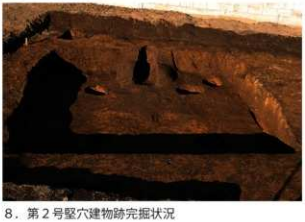
3．第１号竪穴建物跡完掘状況

4．第１号竪穴建物跡遺物出土状況

5．第１号竪穴建物跡竈完掘状況

6．第１号竪穴建物跡竈掘方状況

7．第２号竪穴建物跡確認状況



8．第２号竪穴建物跡完掘状況

1．第２号竪穴建物跡遺物出土状況

2．第２号建物跡遺物（鈎帯具）出土状況

3．第２号竪穴建物跡竈完掘状況

4．第２号竪穴建物跡竈右袖遺物出土状況

5．第２号竪穴建物跡竈左袖遺物出土状況

6．第１・２号柱穴列完掘状況

7．遺跡全景（西から）

8．遺跡全景（東から）

SI-01 NO.1

SI-01 NO.2

SI-01 NO.3

SI-01 NO.4

SI-01 NO.5

SI-01 NO.6

SI-01 NO.7

SI-01 NO.8

SI-01 NO.9

SI-01 NO.10

SI-01 NO.11

SI-01 NO.12

SI-01 NO.13

SI-01 NO.14

SI-01 NO.15

SI-01 NO.16

SI-01 NO.17

SI02 NO.1

SI02 NO.2

SI02 NO.3

SI02 NO.4

SI02 NO.5

SI02 NO.6

SI02 NO.7

SI02 NO.8

SI02 NO.9

SI02 NO.10

SI02 NO.11

PL 6

SI02 NO.12

SI02 NO.13

SI02 NO.14

SI02 NO.15

SI02 NO.16

SI02 NO.17

SI02 NO.18

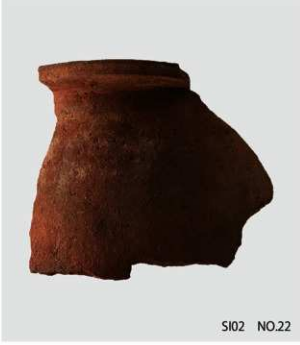
SI02 NO.20

SI02 NO.19

SI02 NO.25

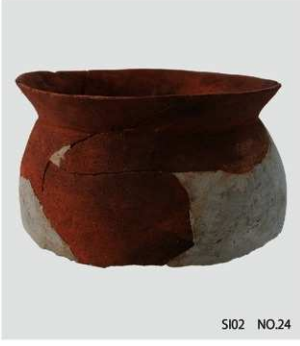
SI02 NO.26

SI02 NO.21



SI02 NO.22

SI02 NO.23



SI02 NO.24

PL 8

SI02 NO.28

SI02 NO.29

SI02 NO.30

SI02 NO.31

SI02 NO.32

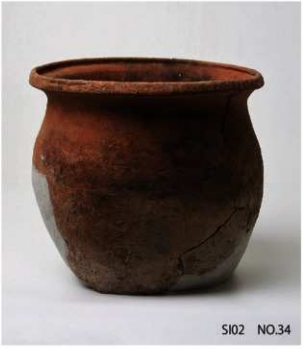
SI02 NO.33

SI02 NO.35

SI02 NO.36

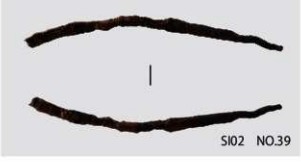
SI02 NO.27

SI02 NO.37


SI02 NO.34

SI02 NO.38

SI02 NO.40


SI02 NO.39

SI02 NO.41

SI02 NO.42

SA01 NO.1

報 告 書 抄 録

ふりがな	やなぎしたびーいせき
書名	柳下Ｂ遺跡
ふりがな	
副書名	
シリーズ名	結城市文化財調査報告書　第 12 集
発行機関	結城市教育委員会
所在地	〒 307-8501　結城市中央町二丁目３番地
編著者名	齊藤達也　平石尚和
編集機関	関東文化財振興会株式会社
所在地	〒 308-0846 茨城県筑西市布川 1012
発行年月日	2023（令和５）年６月 28 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
柳下（やなぎした）Ｂ（びーいせき）遺跡	結城市（ゆうきし）結城字柳下（ゆうきあざやなぎした）12,171 番地（ばんち）の１	08207	029	36° 18′ 53″	139° 52′ 85″	41 ～ 42m	2022.12.03 ～ 2022.12.23	50㎡	宅地造成工事に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
柳下Ｂ遺跡	集落跡	古墳	竪穴建物跡	１棟	土師器（坏・台付甕・甕）	灰釉陶器托、青銅製銙帯具（巡方）、土師器坏、須恵器坏の墨書土器が出土している。
		奈良	竪穴建物跡	１棟	土師器（坏・台付甕・甕） 須恵器（坏・高台付坏・甕） 灰釉陶器（托） 土製品（管状土錘） 石製品（砥石） 銅製品（銙帯具） 鉄製品（刀子・不明鉄製品）	
		時期不明	柱穴列 土　坑	２条 ２基	土師器（坏）	
要約	古墳時代後期・奈良時代の遺構が検出し、古墳時代から平安時代までの遺物が出土する複合遺跡である。					

結城市文化財調査報告書　第12集

柳下B遺跡

印　刷　令和5年6月28日
発　行　令和5年6月28日

発　行　結城市教育委員会
〒307-8501　茨城県結城市中央二丁目3番地
TEL　０２９６－３２－１９３１
編　集　関東文化財振興会株式会社
〒308-0846　茨城県筑西市布川1012
TEL　０２９６－２８－７７３７
印　刷　山三印刷株式会社
〒311-4153　茨城県水戸市河和田町4433-33
TEL　０２９－２５２－８４８１